

がさぐるま

ひと 未来 輝いて

2018 March

NO. 98



オリエンタルカーペット株式会社様（山辺町）から
いただいた残糸で製作した作品です。
ご提供いただきありがとうございました。

（サポートセンターういんず 利用者の作品）

特集

- 多様な福祉ニーズに応じていくために（施設機能の見直し）
- 高齢化・重度化に対応したグループホーム整備

トピックス

- 人材育成施設視察研修
- 法人の取り組み、各施設の取り組み
- お知らせ（リハビリ室からこんにちは！、寿海荘、簡単料理レシピ集の発行、ホームページリニューアル）

多様な福祉ニーズに応えていくために（施設機能の見直し）

平成26年7月の「県立障がい者施設等見直し方針」に基づき、平成28年4月に6施設の設置・経営権が事業団に移譲され、現在、鶴峰園と慈丘園の改築（合築）を進めています。

また、平成28年～29年にかけて、ワークショップ明星園、梓園、コロニー希望が丘、そして吹浦荘において、機能強化に向けた改修工事が行われました。

この工事は、入所者の高齢化対応、強度行動障がい者の受入れや重症心身障がい者の短期入所受入れ、難病等医療的ケアを伴う利用者の受入れなど、新たな福祉ニーズに応えていくことを目的としています。

今、事業団には、時代の流れ、社会の変化を的確に把握し、多様な福祉ニーズに応えていくことで、地域づくりの一翼を担う社会福祉法人となることが求められています。

地域社会に対し、積極的に情報発信しながら、福祉向上に貢献したいと考えています。

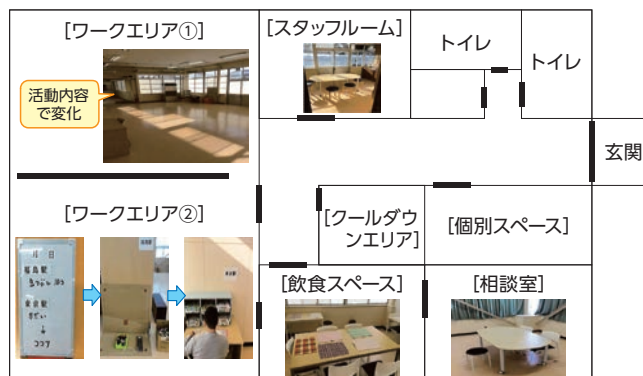
新ステップハウス完成（作業棟改修）

希望が丘しらすぎ寮 援助員 加藤 裕司

しらすぎ寮（すずらんハウス・ステップハウス）は、自閉症・強度行動障がいがある方の支援を中心に、様々なニーズに対応するため取り組んできました。しかし、現在の活動場所は活動スペースが狭く、隣の方の活動が視界に入ってしまう、他の方の話し声が聞こえてしまうといった状態で、自閉症の方にとっては上手く集中できない環境でした。

平成29年、専門的な支援を行う環境としてコロニー敷地内の木工作业棟を改修しました。これまでの建物より十分な広さができたことで活動の幅が広がり、一人ひとりの特性に応じた物理的構造化が可能になりました。更に、クールダウンができる部屋も設け、利用者が安心して活動できる環境に変わりました。今後しらすぎ寮は、地域に暮らす自閉症・強度行動障がい者の活動の場として、短期入所事業と併行しセーフティネットとしての機能を発揮したいと考えています。

【新ステップハウス】



希望が丘診療所改修

希望が丘診療所 事務局長 鈴木 芳尚

平成28年12月から平成29年3月にかけて診療所のレントゲン撮影室、内視鏡室、歯科診療室、汚物処理室、男女トイレの改修工事を行いました。

以前のレントゲン撮影室は非常に狭く、移動も困難で、大変ご不便をお掛けしていました。これをより安全で機能的な空間に拡張しました。内視鏡室も場所を移動し、動線に合った水場等の設置を行い、機能的で明るい検査室となっています。また、その一角には、かつてあった男女トイレをコンパクトに配置し直しました。歯科診療室も動線を見直し、内装を張り替え一層明るくなりました。

新しくなった診療室及び各検査室により受診される方々と診察する側のストレスが軽減され、今まで以上に診察や検査が受けやすくなったと思います。これらを最大限に活用し受診される方々がますます安心して受診できるよう、スタッフ一同対応して参ります。



通所利用者室改修、特殊浴槽導入

平成29年末に、入所居室2部屋を通所利用者室として1部屋に改修をしました。この部屋は利用者が大半の時間を過ごすところなので、水周りも完備しました。今までと違い、静かな環境で各個人の余暇活動ができ、通所担当の職員が常時いるため、利用者の話や状況も把握でき、利用者にも好評です。

体調不良の利用者がいれば、横になって休めるベッドもあります。医療強化ということで、短期入所室には、重度・難病者受け入れのためのベッドも購入しました。

梓園は下肢障害の利用者が多い施設です。今後、利用される方も下肢障害や重度障害、難病の方の受け入れも予想されるため、平成29年11月にいすに座ったまま入浴ができる特殊浴槽も導入しました。利用者からは「安定していて、安心してお風呂につかることができる」と評判が良いです。職員の腰痛予防も期待できると思います。

梓園 援助主査 猪口真里



短期入所室の増設



吹浦荘 荘長 伊藤誠男

平成29年12月中旬から平成30年2月末までの期間で、吹浦荘の短期入所の受け入れ強化のため、居室の増設工事が行われました。二人部屋を個室にする改修工事、これまでの4部屋6人から、個室が4部屋増えて8部屋10人になりました。

近年、短期入所利用では個室の利用申し込みが多くなってきており、既存の2部屋ある二人部屋も、利用者の状況により個室として利用していただくことも多く、他の申し込みがあってもお断りしなければならないこともありました。

今回、個室が増えたことにより、更に利用者一人ひとりのニーズに合わせて支援していくことができるようになり、これからも短期入所を通して自宅で生活している利用者の方々の力になり、地域福祉に貢献できるように努めていきたいと思えます。

障害者支援施設(鶴峰園・慈丘園)移転改築(合築)工事 ~総合施設名称は「かるむの里」に決定!~

事務局 改築営繕室

昭和48年に開所した山形県慈丘園(鶴岡市下川)と昭和51年に開所した山形県鶴峰園(鶴岡市湯田川)は、施設の老朽化に対応して利用者の方の生活環境を改善するとともに、高齢化・重度化する利用者の方への対応、リハビリ機能の強化及び重症心身障がい者の短期入所の受入れ体制を整備するため、両施設を移転改築(合築)することになり、現在、鶴岡市栃屋(天保恵)に建設中です。

新しい施設については、敷地面積約12,400㎡、鉄骨造2階建て、延床面積約7,300㎡となります。1階フロアが鶴峰園スペース、2階フロアが慈丘園スペースとなり、1階にある事務室、厨房、体育館等は共有スペースとなります。

工事の進捗状況については、平成29年5月末に工事業者が決定し、6月に工事着工しています。現在は基礎コンクリート工事が完了し、鉄骨の建て方及び床コンクリート工事をこなっており、鉄骨の建て方が完了したところから、屋根工事、外壁工事と進んでいます。

施設完成は平成30年10月の予定です。



高齢化・重度化に対応したグループホーム整備

民家の借り上げによる障がい者グループホームの運営については、建築基準法や消防法上の要件が厳しくなっていることもあり、専用住居の整備が求められるようになってきています。

現在、事業団では、既に入居されている方の重度化・高齢化への対応や障害者支援施設利用の重度の方の地域移行を推進するため、グループホームの整備に着手しています。

平成30年度の障害福祉サービス等報酬改定においても、重度化・高齢化に対応できるグループホーム（共同生活援助）の新たな類型として、「日中サービス支援型共同生活援助」の創設が掲げられており、この流れも視野に入れながら、安全・安心に生活を送ることができるグループホームを整備していきたいと考えています。

● 地域で自分らしく

ワークショップ明星園共同生活事業所 所長 色摩 幸子

ワークショップ明星園共同生活事業所は、平成18年、山形市内の空き家を利用してグループホームを開設し現在22名の方が利用されています。

当初から入居されている方々には、高齢に伴う身体的な問題を抱えている方が増え、不便さや不安を感じる様子がありました。私たち支援者は、安心・安全な生活を基盤に「ひとりの人間として尊重され街で普通に暮らしたい」「生まれ育った地で生活を楽しみたい」という気持ちを大切に受入れ、地域生活を楽しんでいただこうと日々頑張っています。

そんな利用者の地域生活への想いと、支援者の、出来るだけ長く、多くの方々の安心した豊かな生活へのお手伝いがしたいという想いを実現するために、この度ハウスメーカーや地権者の方々の障がい者へのご理解もあり、バリアフリーの浴室も備えたホームを完成することができました。



グループホームは、かけがえのない生活の場です。地域で自分らしく生活するためのひとつの場として、仲間との憩いの場としてたくさん思い出を作っていただきたいと感じています。そして、これからも快適な生活へのお手伝いをしていきたいと願っています。

最後に、開所に至るまでご協力いただきましたご家族、関係機関の皆様へ改めて御礼申し上げます、利用者様の新しい門出を見守りたいと思います。

● 一人ひとりの地域での暮らしを支えたい

希望が丘地域福祉支援センター 総括援助専門員 遠藤 紀子

平成30年1月1日、長井市舟場地区に希望が丘西おき第1ホームを新築しました。定員10名・バリアフリー・24時間支援体制の重度対応型ホームです。

希望が丘のグループホームは30年余りの歴史がありますが、初めての新築ホームです。

既存のグループホームは、老朽化と建築基準法や消防法への対応等ハード面、利用者の高齢化・重度化に伴う支援体制の課題を解決しなければならない時期になっています。このホームはその第1歩となりました。

スプリンクラー設置、警備システムの導入により安全安心な環境で、居室は8畳（クローゼットを含む）のゆったりした居住空間です。夜勤体制で24時間職員が支援します。

現在総合コロニー希望が丘から3名の新たな地域移行者と、既存ホームから6名の移動者9名が入居しています。地区の皆さんの理解に恵まれ、地域の一員として楽しく生活していきます。



TOPICS

人材育成施設視察研修

事務局キャリア開発課

先進施設の視察研修を行うことにより、施設の現状を客観的に評価し、職員個々のスキルアップ、リーダーシップ、モチベーションの向上及び施設機能強化に資することを目的として平成27年度から29年度までの3年間実施してきた「人材育成施設視察研修事業」も最終年度を迎えました。

今年度は16名の参加希望があり、それぞれの視察目的から5班に編成して実施しました（特養施設援助職員2班、障がい施設の援助職員2班、厨房職員1班）。

各班とも事前に質問したいことを視察先に伝え、視察当日にはその回答以上の収穫を得て戻ってきたようです。その成果は、2月21日に行われた平成29年度採用職員フォローアップ研修において、各班の代表者より報告してもらいました。受講していた新採職員も他県の施設の取り組み等に刺激を受けたようです。

「農福連携」って何だろう？

希望が丘あさひ寮 援助主査 鏡

広 英・主事 新 野 龍之介

平成29年秋、人材育成施設視察研修事業の一環として、就労系福祉サービスを行っている米沢市の「特定非営利活動法人なでらの森」と福島県の「社会福祉法人こころん」を視察させていただきました。共に農業と福祉を連携させた事業を展開しており、単に作物を作るだけでなく、食品加工や流通販売までを一体的に行う6次産業化を進めていました。無農薬野菜を使った弁当の販売や、栽培した作物で作った料理を提供するカフェなど、付加価値を高めるアイデアが就労系事業を行う上で重要であると学びました。また、福祉が先にあるという考え方ではなく、社会と福祉をどのように結び付けていくかという発想の転換が、福祉の現場で働く私たちには必要であると強く感じました。この視察研修で学んだことを生かして、より良いサービスを提供できるよう努力していくとともに、地域の活性化につながるような取り組みも行っていきたいと思います。



食べてなるほど！調理の極意

鶴峰園 調理師 中 濱 孝 礼

利用者の高齢化、重度化が進み栄養ケアマネジメントの導入によって食事も個別対応が求められています。その中で、障がい者歯科診療があり摂食嚥下検討チームを結成されている埼玉県社会福祉事業団嵐山郷で、実際に試食をして昼食状況を視察させていただきました。食数としては、400食。うち100食を個別対応で提供していました。

何種類かの食形態を試食して、調理上の技術や工夫を学ぶことができました。又、昼食を見学して、利用者一人ひとりの食事状況をマニュアル化して共有することで誰でも同じ支援を行えるようにしていました。

この視察研修を通して、食事とは支援の一つで、全職種が連携しそれぞれの視点で話し合う場が必要だと感じました。そして、調理師として利用者に安心、安全で楽しんでもらえる食事を提供できるよう日々の業務に生かしていきたいと思います。

法人の取り組み

▶ 実践報告会

事務局キャリア開発課

平成30年2月15日、「平成29年度山形県社会福祉事業団実践報告会」(以下、報告会)を開催しました。

この報告会は、職務上の課題や利用者サービスの向上に向けて真摯に取り組んだ実践について発表・報告する場として毎年この時期に行っています。

今年度は、法人内18施設の実践の中より代表して6施設が報告しました。その中で、利用者の「健口」運動の取り組みについて、リズム体操や嚥下体操、唾液腺マッサージ及び口腔ケアの実践に取り組んだ「特別養護老人ホーム大寿荘」が最優秀賞に選ばれました。

これからも当事業団は、実践報告会を通じて日頃の実践を分析・評価し、他施設のよりよい実践を自施設のサービス提供に反映させることにより、専門性の継承と職場活性化を推進していきます。



	発表施設名	テーマ
最優秀賞	特別養護老人ホーム 大寿荘	「大寿荘利用者の「健口」運動の取り組みについて～美味しい食事、健康をいつまでも!!～」
優秀賞	多機能型施設 ワークショップ明星園	「おーぶん・ざ・どあ 2」
	山形県総合コロニー 希望が丘 管理課	「NOミス作戦(ノーミス作戦)」
	特別養護老人ホーム 福寿荘	「～健康サークルを通して～ 「未来の自分につなげるために…」」
	障害者支援施設 吹浦荘	「～「いただきます」「ごちそうさま」～ 1日の栄養(必要なkcal)をしっかりとうろう～食育～」
	山形県総合コロニー 希望が丘 しらさぎ寮	「新ステップハウスでの取り組みについて ～行動障がい軽減について～」

▼報告会にご出席いただいた助言者の皆さんからコメントをいただきました。

東北公益文科大学 教授 武田真理子氏

全体的に食、嚥下、福祉事業の種別を越えて高齢化という共通の課題に悩んでおり、その課題に対し、様々な工夫や取り組みをしている内容は参考になったと感じます。

印象に残っていることは、ワークショップ明星園の厚労省の「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現という新しい施策の中で、地域との関わり方について新たなチャレンジを行い、自分達の職場の働き方を見直し、健康増進がサービスの質の向上に繋がるという取り組みが大変興味深かったです。

研修推進事業は大変重要な機能を果たしているため、実践研究のノウハウを蓄積し、法人全体・他の事業所、他の福祉の現場の方々にも還元できるように活用していただきたいです。

常務理事 押野 賢也

各施設・事業所でサービスの向上を目指し様々な取り組みを行っていることに敬意を表したいと思います。

新たな課題への挑戦もあれば、継続して対策を深化させている事例もありました。皆さんからの評価が高かった事例は、共通する課題に様々な職種が一緒に取り組んだもので、他の施設でも参考になる事例であったと思います。これからも共通の認識で協力しながら取り組みを強化することを期待しています。

希望が丘所長 色摩 誠

今回は食事に関するテーマが多かったように思います。食事は基本サービスの一つであり、様々な支援の要素が含まれているため、課題として取り組めるテーマが多く隠されていると思います。

事業団以外の事業所では、食事自体を委託する所が増えていますが、事業団では自前で行うことを信念に持ち取り組んでいます。その強みを発揮できるよう、これからも注目されているサービスの一つとして頑張っていただければと思います。

自施設の取り組みを振り返るとともに、他施設の取り組みを学び、有効活用出来る機会です。

有意義に活かしていただき、日頃の支援、サービスの向上に繋げてほしいと思います。

▶ 健康運動セミナーを開催しました！

希望が丘しらさぎ寮 援助主査 白岩 守

平成29年12月13日、協同の杜JA研修所にて講師に鈴木玲子氏(東北福祉大学特任准教授)を招き平成29年度山形県社会福祉事業団健康運動セミナーを開催しました。このセミナーは当法人の健康運動部会が中心となり10年以上前から続けているものであり、法人内の事業所だけでなく地域貢献の一環として外部の福祉関係事業所にも参加を募っています。今回のテーマは「楽しく・わくわく・えがおで仲間とコミュニケーション」というもので、鈴木氏よりさまざまな場面でのアイスブレイキング法を学びました。後半は実技を行い、実際に体を動かしたり、グループごとに行う内容もあり、笑顔が多く見られました。

参加者からは「現場での実践に活かしたい」「今回学んだことを他の職員にも伝えたい」等参加して良かったとの感想が多く聞かれました。今後も、高齢者や障がい者の健康づくりに役立つ、皆で楽しく取り組めるような活動をしていきたいと思っています。

各施設の取り組み

🎯 梓園社会福祉セミナーを終えて

梓園 主任理学療法士 吉田 謙介

平成29年10月18日「高次脳機能障がい者への自立訓練（生活訓練）における関わり」をテーマとし、梓園社会福祉セミナーが開催されました。講師に千葉県千葉リハビリテーションセンター障害者支援施設更生園 支援副部長 鶴岡弘将氏とサービス管理責任者 岩井美葉子氏をお招きし、「自立訓練（生活訓練）について」「高次脳機能障がい者の自立訓練（生活訓練）の実際」について講演していただきました。梓園では、高次脳機能障害に特化した支援をさせていただいております。そういった現状の中で、高次脳機能障害をテーマとした取り組みをしてきました。高次脳機能障害については、徐々に浸透しつつありますが、十分ではない状況があります。今回、先進的に支援されている更生園の現状を伺いながら高次脳機能障害への支援について学習する良い機会となりました。高次脳機能障がい者の方がより良い生活を営んでいけるように支援していきたいと思っております。



🎯 音の風にのって♪

サポートセンターういんず 援助主査 大場 博喜

「それでは“池田敏美さん ヴァイオリン音の風コンサート”の開演です！」

それと同時に、甘くささやくような楽曲「愛のあいさつ」が楕円形の会場いっぱいに響き渡り、続いて「ユーモレスク」が奏でられると、140名の参加者は一気に重厚な音色に引き込まれていきます。

同コンサートは、平成30年2月20日どんがホールにて、サポートセンターういんずの地域貢献・地域交流の一環として開催されました。

池田氏は最上町在住で、以前は東京フィルハーモニー交響楽団などで活躍され、現在は全国各地で活動を行っています。障がい者を対象としたコンサートも数多く開催しており、この日も障がい福祉サービス事業所等から参加された方々が楽しめるよう、歌あり、曲の紹介あり、更にはヴァイオリンの体験ありと、とても内容の濃い構成となっていました。

アンコールの「情熱大陸」を含め14曲のコンサートが終わった後には、多くの参加者から「感動した。素敵だった。また開催してほしい」との感想が寄せられました。

サポートセンターういんずは、これからも地域の方々と共に歩んでいけるような、様々な取り組みを開催していきたいと思っております。



🎯 興奮と感動をありがとう！頑張れモンテディオ!!

余暇を利用して、サッカーJリーグ・モンテディオ山形ホーム戦を観戦した利用者の皆さんからコメントをいただきました！

「モンテディオ山形を応援するのは楽しかったです。みんなで大きな声で応援するのが楽しかったです。」

(あさひ寮 長谷部利明さん)

「少し寒かったけれど、楽しく観戦できてよかったです。また行ってみたいです。」

(あさひ寮 安藤 賀草さん)

「モンテのゴールが決まったところが、かなりおもしろくて、すごくうれしかったです。」

(あさひ寮 阿部 友彦さん・我妻ひろみさん)

「昨年も補助員の方と車いす席で観戦してきた。隣の方と障がいを越えて応援でき楽しい時間を過ごせた。今年も勝利の県民歌サポーターソングを歌いたい。」

(ワークショップ明星園 大場不三雄さん)

リハビリ室からこんにちは!

腰痛予防について

大寿荘 主任理学療法士 小出 由美子

介護の現場の皆さんには、腰痛を経験したことがある方、大変多いことと思います。今回は皆さんもよく言葉にしている「全介助」について、一緒に考えてみましょう。全介助の方に対して行う動きは、職員のペースでしょうか、利用者のペースでしょうか?言い換えれば、その動作を全力で先取りしていませんか?本当にその方は全然動けないのでしょうか?

そこで、ワンポイントアドバイス☝

介助の仕方によって行動を制限していることも多々あるようです。皆さんには、利用者の「動きの後追い」をお勧めします。動き始めは軽く、一緒に身体がついてくるかどうかを感じてください。但し、本人が不安定にならないよう、動作のための準備や動きの方向などを事前に確認してください。介護は力というより、利用者が動きやすくなっているか、自分は無理な体勢になっていないかを感じる事が大切であると思います。是非、意識してみてください。

まごころ料理で心もあったか

1泊2食付き **5,350円**(税込)

60歳以上の方・母子(寡婦)・
父子・身体障がい者等の方



あつみ温泉
山形県福祉休養ホーム

寿海荘

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海字湯之里88-1
お問い合わせ(ご予約) **0235-43-4173**

レッツ・トライ! 簡単料理レシピ集の発行

山形県総合社会福祉基金(紅花ふれあい基金)の助成を受け、知的障がいのある方を対象とした「料理レシピ集」を発行しました。「食材・道具・手順」を人気メニューごとにわかりやすくまとめており、ホームページにも掲載する予定です。



山形県社会福祉事業団のホームページをリニューアルしました!

平成29年11月にホームページをリニューアルしました。ぜひ、ご覧ください。

URL: <http://www.yjsj.or.jp/>

